

美浜3号の運転再開を止めるため、長浜市北部で約7,000世帯を訪問 「原発事故で琵琶湖も余呉川も汚染される。農業もできなくなる」

🌱 チラシや対話が種となり、次の芽吹きにつながってほしい

2022.8.26 避難計画を案ずる関西連絡会

私たちは老朽原発美浜3号の運転再開を止めるため、滋賀県長浜市の避難対象地域で、チラシを配布しながら戸別訪問を続けてきました。次の運転再開を止めようとの思いで、昨年10月23日に美浜3号が運転を停止した翌日から、開始しました。今年7月までに、約7,000世帯、避難対象地域の75%を回り、計15回の訪問に延べ101名が参加。「湖北原発ゼロの会」の皆さんに協力していただきました。

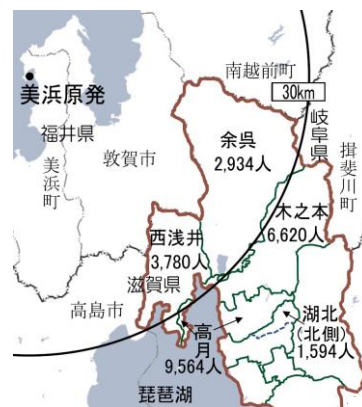
8月上旬の豪雨では、湖北地域も洪水等の被害にあい、住民の皆さんの安否を心配すると同時に、自然災害と原発事故が重なれば、避難はできないことを改めて実感しました。

住民の皆さんの声をもって、美浜3号の運転再開に反対するよう滋賀県（7月29日）、長浜市（8月8日）、福井県（8月16日）にも申入れに行きました。

戸別訪問で聴いた住民の皆さんの声から、いくつか紹介します。

（詳しい紹介は、避難関西の資料参照 http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/nagahama_shoukai20220724.pdf）

美浜原発事故時の避難対象地域
滋賀県長浜市 約24,500名



○ほとんどの人が、避難先市町も知らない

県内避難先が東近江市、草津市、甲賀市であること、県外避難先が大阪府南部の市町と知っている人はほぼ皆無。長浜市がいまだ避難所を公表していないことには驚きや怒りの声も。

○原発から近いため、反対とはっきり語る人、不安を持っている人が多い

○琵琶湖の汚染に反対、余呉川の清流を守りたいとの声 *琵琶湖は避難できず汚染され、大阪、京都の人も水が飲めなくなる。*余呉川も汚染され、農業もできなくなる。

○避難できない深刻な実態 *冬場は雪が多くて国道8号線に出ることも難しい。*自分で動けない人も多い。限界集落に近い状態で避難は無理。*デイサービスの施設や福祉施設では、避難計画もできていない。

○滋賀は被害だけ。事前了解の権限がないのはおかしいとの声も多い

○市長や市に話してみる、チラシを広めてくれる人も *避難先のことや安定ヨウ素剤のことも、一回も聞いたことない。市長に会って話をしてみる。*道の駅にチラシを置いてあげる。

○自然災害と原発事故が重なれば、避難はできない

*橋脚に流れてきた木が当たったら橋が落ちて渡れへんようになる。ここから少し下がったところは土砂崩れが2回起きてる。避難言うても公民館止まりになる。

◆戸別訪問を終えて ~チラシや対話が種となり、次の芽吹きにつながるように~

初の長浜市北部での戸別訪問でした。観光化された長浜駅周辺とは異なり、限界集落に近い最北部の余呉町にはコンビニもありません。広い水田地帯を歩いて次の集落を目指したり、20分以上も原発について話し込んだり、追い返されたり等々、多くの住民の皆さんとの出会いでした。

チラシや対話が種となり、住民の皆さんの心に残り、次の芽吹きにつながりますように。